須賀学園生徒会

ひめまつ

昭和32年3月1日印刷
昭和32年3月5日発行

ひめまつ

第11号

・・・・目　次・・・・

巻　頭　言　　学校長　須賀友正
論文　学生の立場から　三年　手塚マチ子
「研究課題」
国語　樋口一葉　二年　枝野悦子
家政食生活の改善　二年　斎藤キヨノ
家政台所の改善　二年　稲川マサ子
国体出場ソフトボール姫路遠征記　横山生
俳句えの道しるべ　野沢穂村
那須（下野古典文学散策）　井上悠逸
科学随想　柴田正博
私の健康観　細内孝男
麺味の螺染について　坂本文子
四季雑詠　野沢穂村・井上悠逸・斎藤幸子
実習生体験記　三年　手塚マチ子
思い出の旅より（関西旅行）　三年　荒川チヨ
（伊豆長岡の旅）　家専　高橋多津子
私達の文集　家専　設楽うめ子
詩集　一年　中村輝子他
歌集　一年　山口喜久江他
句集　一年　大和田紀代実他
読書感想（痴人の愛）　二年　栗原光代他
映画鑑賞　三年　渡辺暢子他
生徒会便り
バザーの記
昭和31年度学校行事要覧
職員住所録
編集後記
表紙　島田訥野

学校長
須賀友正

校歌

二荒の高嶺を　遥かに仰ぎ
学びの道筋　まさきくあれと
かたみに誓ひて　いとしみ勤む
学びの庭こそ　げに尊とけれ
あはれ尊と　この学びや

庭面に茂れる　姫松小松
変らぬ操は　千代万代と
かたみに祝ひて　いとしみ勤む
教への庭こそ　げに芽出度けれ
あはれ芽出度　この学びや

正門及講堂・校舎

う感じの人で、男の人でも気軽に話が出来、決して邪心はなれた考えを持っていた人ではなかった様だ。一葉には青春時代がなく「乙女心」を知らなかったと云われ、かしこい都会風の人ともいわれている。生活は不規則で寝る時間、起きる時間がまちまちであった。

五の「墓」を陽に二一歳の[illegible]

二五年（二一才）

「闇桜」（武蔵野）「わかれ霜」（改進新聞）「五月雨」（武蔵野）

「経つくえ」（甲陽新報）「うもれ木」（都の花）

巻頭言

学校長
須賀友正

気象台はじまって以来のドライな冬もすぎて、校庭には陽春のひざしが流れ、瀟洒な窯越しに語る乙女らの声もなんとなく春めいて来た。

ふりかえってみると昭和二十年の夏戦災をうけて全校舎が焼失し、生徒達とともに灰燼のなかに雄々しく立ちあがってから既に十年余、茨の道は常に切りひらかれ、楽しい学園の基礎は年毎に固められた。

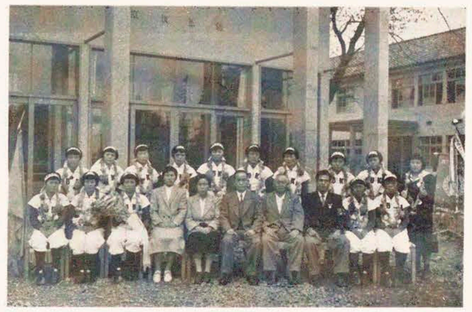
本年は日ソ国交の回復、国連への加盟等わが国の飛躍的な足あとを残して昭和三十二年度へ引継がれようとしている。何んとなく明るい幸福な感じがする。

千二百余の生徒が嬉々として学ぶ吾が校も施設面では講堂に続いて体育館、調理室新館、正門などが新営され、ミシン室も整備されようとしている。スポーツ面では昭和二十六年から六年間連続国体出場という伝統のソフトボールが本年度国体で全国第四位、関東選手権大会では晴れの優勝をとげ、バレーも関東大会に出場して準決勝に進出、その他の各部とともに新年度の活躍が期待されている。文化部も図書館の拡充目覚ましく、校組栄子刀自の教旨を汲む家庭科は本校独特のバザーに特に異彩を放っている。訓育面ではホームルームを基本とする家庭訓育—しつけ—の徹底が大きく取りあげられ、円満な人間教育の基盤が着々とつちかわれ御同慶にたえない。

かゝる本校の整備発展は四十有余の職員の和と、PTA各位の御支援、そして生徒達の協力の賜と私は日頃から深く感謝している。こうした中にも三百の愛し子の巣立ちゆく日の迫ることを思うと別離の情にうたれるが、力強く実社会に羽搏つことを考えれば心からの歓喜が溢れてくる。

諸子よ、健康であれ。美しくあれ。

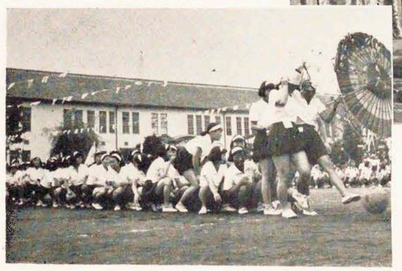
優勝旗
（第六回関東ソフトボール大会）



ソフトボール

芸能祭

バザー（和裁室）



運動会

う感じの人で、男の人でも気軽に話が出来、決して飛びはなれた考えを持っていた人ではなかった様だ。一葉には青春時代がなく「乙女心」を知らなかったと云われ、かしこい都会風の人ともいわれている。生活は不規則で寝る時間、起きる時間がまちまちであった。

成の「裏紫」を除けば二一篇の小説が活字になっている。

二五年（二一才）

「闇桜」（武蔵野）「わかれ霜」（改進新聞）「五月雨」（武蔵野）

「経つくえ」（甲陽新報）「うもれ木」（都の花）

高